

かわだや かわら版



1つ挨拶

かわら版愛読者の皆様、こんにちは。代表の河田です。ついこの間新しい年になったと思ったら、もうすぐ桜の季節。早いですね。

かわだやという木も10年経ってやっと蕾がちらほら出てくるようになりました。

木は毎年年輪を重ね大きく育っていきます。かわだやという木も毎年大きな実のなる木になるよう日々精進していきたいと思います。

【かわだやの大きいなる野望】



皆さんも普段ニュースなどでご覧になったことがあると思いますが、塗装業は世間的には特別な存在のようで(悪い意味ですが) 犯罪者の肩書に塗装工という表現があります。運送業・自営業・アルバイト・建設業、等々ほとんどが大きな枠に包まれています。

しかし、塗装業だけは単独で特別扱いされています。しかも、時には「元塗装工」と表現している時もあります。「元塗装工って今はなにをやってるんだよ」って常々思います。現代社会における塗装業のイメージは昔よりは良くなってきたと思いますが、まだまだそういう存在なのが現実です。

かわだやでは「塗装業は建築というよりもサービス業の一部」という意識を持って、少しづつコツコツと世の中の塗装業に対するイメージを変えていきたいと思っています。

平成23年 2月

第五号

(旬)かわだや 発行

【今月の1冊】



いよいよシリーズ第2段。

今回は「もしドラ」を読みました。

正式名称「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら」です。

この本は野球部のマネージャーが、ドラッカーのマネジメントを応用して野球部の抱えている問題を分析し、部員たちにやりがいを与え、適材適所に人員配置をし、見事に野球部を甲子園出場に導くという物語なのですが、その本質は高校野球ドラマではなく、組織の経営・運営について紹介している本なのです。

会社の経営やマネジメントに関する本は多々ありますが、どれも皆難しい表現です。しかし、もしドラは経営者に当たる人が女子マネで、従業員を野球部員(私が思ったのですが)に例えて青春ドラマを通じてマネジメントについてわかりやすく書いてあります。ここがこの本の凄いところだと思います。

もともと野球好きな私は、またしても一気に読みてしまい、この本を通じていろいろなことを学びました。

「人は最大の資産である。」「真摯さを絶対視して、初めてまともな組織といえる」などなどたくさんの印象に残る文が記載されていました。

最も印象に残ったシーンは、甲子園出場を控え、テレビのインタビューを受けるシーンで、キャプテンがインタビュアーに「甲子園では、どんな野球をしたいですか?」と尋ねられたところ、キャプテンは「あなたは、どんな野球をしてもらいたいですか?」と答えたシーン。

かわだやも、お客様が何を求めているかを常に意識して頑張りたいと思います。



ペンネーム よしろー

【豆まき】

2月3日、「季節行事を大切にしよう!」と思い、子ども達と近くの神社の豆まきに行ってきました。

もみくちゃんになりながら、お菓子と豆をゲットしました(*^^)v。

子ども達より私の方が盛り上がりすぎてしまいました(^^;。

ゲットした豆で、家でも豆まきをしました。

次の日の掃除が大変で、オニの形相だったかも。。。



ペンネーム すーぱーまりお